



ふれあい ひびきあい 学び食い
かがやくだけのこキッズ



えだわんだより



横浜市立荏田東第一小学校

◆〒224-0006 横浜市都筑区荏田東三丁目5番1号

◆Tel…045-941-7630 Fax…045-942-9464

◆<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/edahigashi/>

3月

あらためて、竹の子「えだわん」

学校長 熊谷 潤平

ふと思います。蔓延防止等重点措置が伸び、これだけ新型コロナ・オミクロン株の猛威が身近な所まで来ているということは、主役の児童はもとより、担任を始めとした職員も、校長である私も、卒業証書授与式に出席「できない」ときの構え・準備も必要なのだ、と。とにかく、この感染拡大、一刻も早く収まってほしい。そんな、すぎるような、祈るような心持ちになる一方で、仮に自分も欠席せざるを得なくなったら、証書授与や式辞は副校長に託せるよう、準備しなくてはいけないのだと、ある種の覚悟をするこの頃です。

着任して間もなく一年が経ちますが、学校便り4月号を読み返すと、「希望の力で困難を乗り越りたい」と書いています。コロナ禍であろうと、基本的には、入学式を始めとし、個人面談も、スポーツフェスタも、6年日光宿泊も、卒業証書授与式も、日々の授業やPTA活動も、できるだけ「通常」に近い形で行うのだ、という気概・姿勢で、職員一同、力を合わせてまいりました。それでも、学校説明会や授業参観、5年宿泊、みどりの風懇話会など、社会情勢に鑑み、やむなく通常ではない形にしたものも少なくありません。

不安と心配と無念と。様々な感情が交錯したこの一年でしたが、やはり元気をくれるのは、子どもの姿や言葉です。12月、一度の延期を経て、念願かなって行った日光宿泊から帰校した際、「なぜ6年生は『修学旅行』に行くのか。」と、私は難しい問いを子どもたちに出しました。実行委員長である青木さんは、「普段じゃ学べないこと、たとえば東照宮で歴史を学んだり華厳の瀧で迫を感じたり、泊りがある旅行で体験して学び、友達と学ぶ過程で友情を深めるため。」

と、立派に答えてくれました。

こんな言葉を返せる子どもたちの成長をかみしめたとき、不安や心配を乗り越えられそうな気がしてきます。そうだ。日光宿泊のみならず、子どもたちはこうやってしっかり成長してきているじゃないか。積み重ねてきた成長は変わらない。消えてしまうわけではない。卒業式当日、もし子どもが休んだならば、後日、別の形で「卒業証書授与式」を行おう。様々な本意な制限や条件はあるけれど、できる範囲で、できることを精いっぱいしよう。—そんな風に、少し、勇気が湧いてきました。

そして、何より、いまここに子どもたちは無事に存在している。笑顔がある。ここ数日の、世界の痛ましい、胸が締め付けられる報道に触ればなおさら、目の前の元気と笑顔を、存在そのものを、ありがたく感じます。

「えだわん」の子は、しなやかな竹の子です。柔らかく、でもたくましく、時代の困難に折れることなく伸びていきます。だから、我々大人も、しなやかでたくましい思考と姿勢で困難と向き合っていかなければ。

まもなく、令和3年度が終わります。一人一人が、卒業式や修了式を、すがすがしい気持ちで終えられるよう、卒業の日・修了の日まで、我々職員もできることを精一杯、全うしたいと思います。